石田委員提出資料

2008.3.31　筑波大学　石田東生

内閣府　環境モデル都市・低炭素社会づくり分科会

環境モデル都市において目指したいこと

- **高い志と高い削減目標**
  - 早期に高い削減率　――　例えば、2030：　30-50%削減、　2050：70-80%削減
    総量（成熟社会）　vs.　一人あたり（成長社会）
  - 低炭素・高満足社会　――　活動レベルの無理な低下を強いることのない削減
    貢献感・参画感なども含めての気持ちが大事
  - 都市の個性を活かした削減策 ―― 大・中・小都市、田園都市、中山間地域、･･･
  - 世界のトップランナー

- **世界への発信**
  - 世界へのショウケースとなる多様な環境モデル都市
  - 先端技術（科学／技術）と社会システム（人）の融合
  - ビジネスとしての追求
  - 国の政策と各環境モデル都市の連携
  - モニタリングと成果のアピール

- **環境モデル都市への実験的実践**
  - 都市構成員のスクラム　――　行政、民間、市民、知的インフラ（大学・研究所）
  - 参画と貢献感　――　効果の実感と貢献意識・価値の共有、満足感
  - 社会実験から本格ビジネスへ　――　初動期における援助

- **具体的･技術的レベルにおいて**
  - 都市規模の考慮
  - 重要な技術クラスターとその有機的連携
    - 交通　――　徒歩と自転車、小型軽量ＥＶ、公共交通・貨物交通の効率化,ＩＴＳ
    - 都市構造　――　都市規模に応じたコンパクト性の追求と誘導
    - エネルギー供給　――　エネルギー供給と利用の効率化と低炭素化
    - 住宅・事務所　――　省エネルギー性能に優れた住宅・事務所の普及
    - 社会システム ―― 低炭素型ﾗｲﾌｽﾀｲﾙの追求、実践力とｿｰｼｬﾙｷｬﾋﾟﾀﾙ醸成、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝとｲﾝﾎﾞﾙﾌﾞﾒﾝﾄ
  - モニタリングと即時フィードバックによるプロセス管理